鹿児島市立桜丘中学校
令和４年１０月２１日

第７号

初めに模倣ありき

校長　上久保大介

私が教育学部音楽科の学生だったとき，西洋音楽史の先生がおっしゃいました。「音楽は、**“はじめに模倣ありき”**です。」と。ところが音楽の演奏では，「**ＣＤや他の人の演奏のまねをしてはいけません。**」とも言います。これは「個性的な自分らしい演奏をしなさい。」ということですが，「初めに模倣ありき」という言葉とは**矛盾**しているようにも見えます。実は，この「初めに模倣ありき」という言葉は、**単に他の人の“まね”をして演奏しなさいということではない**のです。

この「模倣」という言葉を学校教育に当てはめて考えると、とてもシンプルに学習の在り方が見えてきます。音楽に限らず、スポーツでも、勉強でも、あるいは伝統的な工芸品作りでも，質の高い芸術や卓越した技能，練習や勉強の仕方など，**「これはすごい！」と思える人をまねし続けることにより，実力が身に付いていきます。**しかも，その尊敬する人のレベルが高ければ高いほど，またその人に対する思いが強ければ強いほど，身に付いた実力は大きくなります。これが模倣です。しかし，この**模倣は単なる“ものまね”ではありません。**なぜなら，精一杯取り組んだ模倣には**その人なりの考えや，やり方が加わる**からです。つまり，一生懸命模倣することにより，大切な**基本**が身に付き，模倣し続けることにより，**応用**が加わり**個性**が発揮されるようになるのです。だからこそ，**質の高い何かを見つけ，模倣し続けることが大切**なのです。

さらに質の高い模倣は質の高い人間性も育てます。逆に，人として望ましくないことを模倣し続けると，その質の悪さはその人に染みつき，**望ましくない性格や習慣として身に染みついてしまいます。**

だからこそ何が自分にとって有用なのかを見極め，質の高い模倣をし続けることが大切なのです。